

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもの駅 とれいん		
○保護者評価実施期間	R7年 9月 1日		～ R7年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	R7年 9月 1日		～ R7年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 9月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日の支援前後に職員間で打ち合わせを行い、支援内容や役割分担の確認、振り返りを通じてチーム連携を強化している。	支援内容の確認と役割分担を通じて、職員が互いに補完し合う体制が整っており、支援の一貫性と質が保たれている。	ホワイトボードや共有ファイルを活用し、支援の目的・役割・注意点を視覚的に整理。支援中も確認しやすく、支援の一貫性が高まる。
2	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が実施されている。支援の質と一貫性が保たれている。	支援計画が職員間で共有されており、誰が支援に入っても計画に沿った対応ができるようになっている。	月1回のモニタリング会議を設け、支援計画の進捗やこどもの変化を確認。必要に応じて計画の見直しを行い、常に「今のこども」に合った支援を提供。
3	通信やSNS等を活用し、活動概要や行事予定を定期的に発信。保護者との情報共有が積極的に行われている。	活動概要や写真付きの報告を通じて、支援の様子が具体的に伝わり、保護者の理解と信頼につながっている。	活動報告だけでなく、支援方針や職員紹介、こどもの成長エピソードなども発信。保護者が事業所の理念や支援の背景を理解しやすくなる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部評価の実施が不十分であり、客観的な視点からの改善機会が限定されている。	外部評価の定期実施体制の構築が十分でない	年1回以上の外部評価を実施することを目標に、評価スケジュールを年間計画に組み込む。評価機関と連携し、継続的な評価体制を構築する。
2	支援内容の専門性や個別性のさらなる充実が求められており、特性に応じた支援の質向上が課題。	職員研修の体系化と参加促進が弱い	法人内での事例共有会やテーマ別勉強会の定期開催。外部研修参加者による報告書提出と内容の共有。
3	職員の資質向上に向けた研修機会の確保が十分でない可能性があり、法人内外の研修体制の強化が必要。	外部評価の導入と活用が積極的になされていない	客観的な視点から事業所の支援の質を検証する。評価結果を職員会議で共有し、PDCAサイクルに組み込む。